

平成29年度 数学 科 授業改善推進プラン

①現状・観点別分析

- [全学年]「授業アンケート」では、「学習のめあてや流れの提示」、「反復練習等による知識・理解の定着」について80%以上が満足している。しかし、「授業などの工夫による意欲や関心の向上」について満足している生徒が80%以下である。
- [1学年]「観点・領域別達成度検査」において、「数学的な見方や考え方」の観点でC評価の割合が全国平均より1.5ポイント高いが、「数学的な技能」と「数量・図形などについての知識・理解」の観点でC評価の割合が全国平均より1.5ポイント以上低い。
- [2学年]「児童・生徒の学力向上を図るための調査」において、「思考・判断・表現」は都平均より4.4ポイント低いが、その他の観点は都平均より高い。また、「解決する力」は都平均より28.1ポイント、「読み取る力」は都平均より8.7ポイント低いが、「取り出す力」は都平均より高い。
- [3学年]「全国学力・学習状況調査」において、数学Aでは「資料の活用」の領域で都の平均正答率より5.3ポイント低いが、全体で都の平均正答率より1.0ポイント高い。また、数学Bでは全体で都の平均正答率より1.0ポイント高い。

②課題

- [全学年]「授業などの工夫による意欲や関心の向上」に課題がある。
- [1学年]「数学的な見方や考え方」の定着に課題がある。
- [2学年]「資料の活用」の領域において、知識の定着とその知識を活用する力の定着に課題がある。
- [3学年]「資料の活用」の領域において、知識の定着とその知識を活用する力の定着に課題がある。

③具体的な改善策

- 【「授業などの工夫による意欲や関心の向上」のために】
 - 習熟度に応じた目標を設定し、達成感を感じさせられる課題の作成や意欲をもって授業に臨ませることができるよう教員が声掛けをしていく。
- 【「数学的な見方や考え方」の定着のために】
 - 発表ボード、タブレットなどを活用した学び合いの授業を設定し、多様な考え方に触れる機会を増やす。
- 【「資料の活用」の領域における力の育成のために】
 - 資料の読み取りがしやすいように、デジタル教科書などを利用して資料の提示を工夫する。また、知識の定着が効果的にできるように、具体的な資料を活用して用語の意味の定着を図る。
- 【「基準量・比較量・割合」の理解を深めるために】
 - 小学校で学習した基礎的・基本的な知識を東京ベーシック・ドリルで確認させたり、ICTを活用して視覚的に捉えさせたりする。